

令和5年 天城町議会第1回定例会

# 施政方針

天城町長 森田 弘光

## はじめに

本日、令和5年第1回天城町議会定例会が開催されるにあたり、町政運営の基本方針と施策の概要をはじめ、町政運営の基本となる令和5年度予算案を申し上げ、議員各位並びに町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

昨年12月に実施されました町長選挙におきまして、町民の皆様のご信任を賜り、引き続き2期目の町政運営の舵取りを担うこととなりました。改めて、その職責の重さに身の引き締まる思いでございます。

1期目を振り返りますと、まさしく新型コロナウイルスに翻弄された日々でございました。そのような中、「住んでよかった。暮らし満足度No.1のまち」を目指し、第6次天城町総合振興計画（AMAGI-VISION）の策定や町制施行60周年関連事業の実施、子育てしやすい環境づくりなど新たな時代に向けた町づくりを着実に進めることが出来たものと考えております。

新型コロナウイルスにつきましては、国内での発生から3年が経過し、国においては感染症法上の位置付けを「2類相当」から「5類」に引き下げることが表明されました。しかしながら、本町においても依然として感染者が発生するなど、終息が見通せない状況でございます。引き続き、関係機関との連携を図り、町民の皆様のご健康と安心安全な暮らしを守ってまいります。新型コロナウイルスと対峙し、町民の日々の生活を支えていただいております医療関係者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆様へ、改めて感謝と御礼を申し上げます。

昨年2月のロシアによるウクライナ侵攻により、人類全体が揺れ動く時代のなか、改めて平和な日々の生活が、いかに尊いものであるかを実感いたします。本年は、奄美群島日本復帰70周年の節目の年となります。また、復興からこれまでの道のりを支えてきた奄美群島振興開発特別措置法の期限切れを迎え、その延長に向けた重要な年ともなります。先人たちが苦難の末に築き上げてきた、今日の平和な暮らしを守り抜くとともに、次世代を見据えた町づくりが私たちに課せられた責務でもあります。その町づくりの羅針盤となるAMAGI-VISIONに基づき、私は大きく6つの項目を町民の皆様と約束いたしました。

1. 平土野港多機能港湾新設の実現
2. 農業・水産業の持続的発展による経済の活性化・所得向上
3. 子どもから高齢者までみんなが健康の町
4. 将来の天城町を託せる人材の教育
5. 世界に誇れる文化・自然の継承
6. 地方創生の推進と均衡のとれた町土の形成

これらの主要政策を重点的に推進し「住んでよかった。暮らし満足度No1のまち」を真に実現するために、本年も全身全霊で町政運営に取り組んでまいります。

本年は「JUMP！！新たな出発から飛躍の年へ、そしてその先へ」をスローガンに掲げ、私のモットーであります「先ず隗より始めよ（率先垂範）」「スピード感を持って対

応」「必ず記録・メモをとろう」を職員と共有し、「変化を恐れず動き出す」ことを常に意識しながら町民サービスの更なる向上に努めてまいります。

“天城町の心はていーち”。心をついに一つにして、共にがんばりましょう。

以下、重要施策につきましてご説明申し上げます。

## 1. 安定した雇用を創出する

### (1) 農業・水産業の持続的発展による経済の活性化及び所得の向上

農家の皆様のたゆまぬ努力により、令和3年度の農業粗生産額は、3次天城町農業ビジョンで掲げた目標額45億円を上回る47億5千5百万円を達成することができました。本町農業の力強さを改めて感じたところでございます。

また、昨年10月に開催されました全国和牛能力共進会において、鹿児島県が前回大会に続き和牛日本一の栄冠に輝きました。鹿児島県代表出品牛には徳之島で生産された牛が首席獲得に貢献し、農家にとりまして自信と希望に繋がる大会となりました。

今後も継続して45億円を達成できるよう「楽しい農で目指せ楽農!! 目指せ45億!!」をスローガンに農業の振興を図ってまいります。

農業を取り巻く環境は、コロナ禍による影響が長期化し、世界的な物流の混乱やロシアのウクライナ侵攻を背景に、燃油や肥料・飼料等生産資材の高騰など、新たな課題に直面しています。国と県におきましては令和4年度に肥料価格高騰に対する緊急支援事業が行われ、本町におきましても、地方創生臨時交付金を活用し、農業資材や燃油購入に使えるクーポン券による支援を行ったところでございます。

肥料価格の高騰は今後も続くことが予想されております。生産力向上と持続性の両立を目指し、有機肥料の活用や施肥体系の見直しによる環境と調和した農業に取り組んでまいります。

経営の安定化を図るため、経営体育成や農業法人化の推進、青色申告会及び収入保険制度への加入促進を進めてまいります。また、農業センター研修生制度や指導農業士による指導等を通じて、新規就農者や地域を担う人材への支援を行ってまいります。併せて、女性の農業参画や農福連携など、地域農業を支える人材の確保に努めてまいります。

人・農地プランが法定化され、地域計画を定めることとされています。農家が守ってきた農地を次の世代へ引き継ぐため、農地中間管理事業を推進し、担い手への農地の集積・集約を進めてまいります。

令和4年度から、農村型地域運営組織（農村RMO事業）を活用し「地域資源の活用」「農用地の保全」「生活支援活動」を目的に、ワークショップやマルシェの開催と、地域における課題や意見について収集を行いました。新年度も定期的なマルシェの開催や農産加

工品の試作、農用地の保全活動、「あまぎ自然と伝統文化体験館」内の直売所開設に向けた農産物の集出荷システムづくり、高齢者の買い物支援等、地域の課題解決と活性化に向けて取り組んでまいります。

基幹作物でありますさとうきびは、熱帯地方での作物の光合成能率の高い特有の反応経路をもつ植物群、いわゆるC4（シーよん）植物として地球温暖化の一因となる二酸化炭素を吸収する機能が他の植物に比べて高いと言われております。また、製糖過程においても、バガスを燃料としたバイオマス発電によって工場の電力を賄うなど、地球温暖化防止や脱炭素に向けた取り組みの観点からも、有益な作物であります。

そのようなさとうきびでございますが、今期産は基準糖度13.7度の1トン当たりにおける生産者手取り価格が2万3千5百6円と、過去最高を2期連続で更新しております。生産量につきましても、本町で6万4千9百トン、徳之島3町では約17万3千トンと前期産とほぼ同量の見込みとなっております。

一方で、収穫面積が減少に転じ、農家の高齢化や労働力不足による適期植付け・管理作業の遅れ等による単収低下が懸念されております。さとうきび農作業受委託調整センターの機能強化やビレットプランタ等の高性能農業機械の計画的導入、土壌診断の推進や堆肥投入による土づくり、可動式誘殺灯による病害虫対策等を実施し、次期増産へ繋げてまいります。

畜産につきましては、町内繁殖雌牛頭数が4千4百頭を超えました。昨年は、子牛価格が落ち込んだ時期もありましたが回復の兆しが見えつつあります。しかしながら、飼料価格の高騰も重なり経営が圧迫されております。低コストで商品性の高い子牛生産体系の確立を目指し、引き続き繁殖素牛導入・自家保留促進助成事業による優良雌牛更新、また、畜産クラスター事業や町単独事業で規模拡大や省力化を図ってまいります。

新年度より、飼料畑に対する土壌改良資材助成を行い、良質粗飼料の自給率向上と経営改善を図ってまいります。また、家畜排せつ物の適正な処理・有用な有機物肥料の活用に向け、引き続き堆肥舎等整備事業を行ってまいります。

ばれいしょにつきましては、徳之島地域赤土新ばれいしょ「春一番」の銘柄でかごしまブランド産地指定10周年の節目を迎え、植付け面積も増となりました。

今期産につきましては、植付けの遅れや寒波による影響で生産量が懸念されるところでございますが、定時・定量・定質の選別・出荷に地域全体で取り組み、消費者や市場からのさらなる高評価確立を目指してまいります。そのため、農業センターや関係機関による研修会の開催や営農指導による生産技術の向上、適期管理の周知、畑かん利用の推進を行ってまいります。また、輸送コスト支援事業や野菜価格安定基金事業による経営面からの支援、機械導入助成やドローンによる薬剤散布助成など作業省力化支援を行ってまいります。

果樹につきましては、令和4年度にマンゴー、パッションフルーツの品評会を開催しましたが、新年度はメロンも加え、技術の高位平準化を目指してまいります。

食育・地産地消につきましては、第3次食育推進計画に基づき、本町の食の魅力を再発見し、多彩な食文化と豊富な農畜産物を活かしてまいります。そのため、農業センターにおける農業塾や技術セミナーを活かした野菜や花づくりの実践と、苗もの市の開催により

家庭菜園の普及を図り、自給野菜の確保に繋げてまいります。

食育講演会や教育ファームにおける農林漁業体験の実施、親子料理教室を通じて食と農への理解を深めてまいります。学校給食における地場産物の活用や、「食育の日」である毎月19日を家庭や職場において家族や友人と一緒に食事がとれるよう推進し、「食」を通じたコミュニケーションの確保に取り組んでまいります。

土づくりにつきましては、土壌診断に基づく堆肥や緑肥等の有機物施用の推進に取り組んでまいります。

鳥獣被害対策につきましては、イノシシ等による農作物被害は減少傾向にあります。鳥獣被害対策実践事業の活用や防護柵の点検、破損箇所の補修等を引き続き進め、さらなる被害の軽減に努めてまいります。

全国的にジビエ料理が注目され、機能性も高いリュウキュウイノシシの需要は高まりつつあります。その需要に応えるため、山猪工房あまぎへのイノシシ持ち込み数の確保に努めてまいります。肉の販売に加え、加工品等にも取り組み「山猪工房あまぎ」の島内外における流通販売の確立とジビエ料理の普及に取り組んでまいります。

林業につきましては、島内産材の普及と利用促進に努めてまいります。松くい虫被害は減少しましたが、貴重な松資源保護に努めてまいります。

また、森林環境譲与税を活用し林業者育成を推進してまいります。

特用林産物の生産について、「シイタケ類栽培」の産地化に向け、普及に取り組んでまいります。

水産業につきましては、天城町水産業振興拠点施設を活用し、地元産鮮魚介類や水産加工品の直接販売による地産地消の推進を図ります。また、町民に広く親しんでいただけるような施設を目指し、拠点施設の愛称募集を行います。地元水産物を中心とした「お魚祭り」を定期的開催し、漁業者と消費者との交流の促進を図り、本町の水産物の魅力を広くアピールしていきたいと思っております。

また、町単独事業として行っております水産業活性化推進事業につきましては、引き続き、燃料費助成や漁具及び資材購入助成を行い、漁業者の所得向上及び漁業従事者の育成に努めてまいります。

農業基盤整備につきましては、天城町畑かん営農ビジョンを基に、関係機関並びに畑かん推進員と協力をしながら、その基盤整備に取り組んでまいります。

現在進めております6地区の県営畑地帯総合整備事業により、新年度は畑かん31ha、区画整理2haの事業を実施し、徳之島ダム受益地の散水可能予定面積は、令和6年3月末時点で431ha、進捗率は33.8%となる見込みです。

また、県営畑地帯総合整備事業の清算事務未完了地区につきましては、現在33地区のうち10地区が完了しました。引き続き未完了地区の清算事務に取り組んでまいります。

農道及び水路整備につきましては、農業基盤整備促進事業南部地区において、農道430m、北部地区では道路100m、排水路90mの整備、浅間・平土野地区においては測量設計一式を進めてまいります。

また、かごしまの農業未来創造支援整備事業（松原白配田地区）においては暗渠排水溝24mの整備を行ってまいります。

南部ダム畑かん施設は、経年劣化により機能低下が生じていることから、ストックマネジメント事業を進めております。また、ほ場内の末端施設につきましては、散水に支障をきたしていることから、令和4年度に更新事業として事業計画書を策定し、新年度は土地改良法に基づく事業申請の為の同意徴収を実施し、令和6年度の事業採択に向けて取り組んでまいります。

多面的機能支払交付金事業につきましては、新年度も、農地・農道・水路・沈砂池等の維持管理活動や施設の長寿命化活動を実施してまいります。

地籍調査事業につきましては、34.74%の進捗率となっております。新年度は、与名間の新規・継続合わせて81haを進めてまいります。

## (2) 新たな事業創出と観光産業の振興

平土野港多機能港湾新設に向けた取り組みにつきましては、1月9日に国会議員の先生や国土交通省港湾局長にご視察いただき要望を行いました。また、1月12日の県知事訪問時においても、平土野港の重要性と多機能港湾化について説明・要望を行ったところがあります。先般、2月4日には3年半ぶりにクルーズ船・にっぽん丸が寄港いたしました。平土野港の現状や課題、ニーズを多面的に整理しつつ、平土野港多機能港湾新設期成同盟会の皆様や町議会議員の皆様と連携し、国・県への要望活動を町民運動として積極的に取り組んでまいります。

平土野地域の活性化につきましては、地権者のご協力のもと、商店街の中の駐車場舗装整備が完了いたしました。また、商工会青年部を中心とした「わっきゃが市場」の開催や平土野アートプロジェクトの推進など、にぎわいづくりに向けた様々な動きが見られるようになってきております。新年度は、平土野アートまち歩き事業補助を実施し「アートタウン平土野」を目指した取り組みを支援してまいります。

商工業につきましては、コロナ禍で経済的に打撃を受けた町内商工業者の支援及び町民の生活支援を目的に、天城町商工業応援商品券の発行や、エネルギー及び食品価格等の物価高騰の影響を受けた全町民を対象にクーポン券発行事業を実施してまいりました。

起業支援につきましては、令和4年度は1件の平土野地区起業家支援事業補助、3件のUIターン起業家支援補助を実施いたしました。今後も新たな事業創出を支援してまいります。

また、町単独事業として、平成21年度から継続して行っている地元消費拡大対策としてプレミアム商品券補助事業費300万円を引き続き行い、町内における消費購買の拡大を図ります。

観光業につきましては、世界自然遺産に登録され観光客の増加が見込まれるため、観光

地連携整備事業で大和城バリアフリー型バンガローを整備いたしました。町民の皆様にも、自然体験や憩いの場として活用していただきたいと思います。今後も、環境に配慮した整備を心がけるとともに、人と自然が共生する癒しの観光地づくりを継続して進めてまいります。

横浜・八景島シーパラダイス水族館では、天城町ブースが開設されており、広く PR を行っております。引き続き、水族館と連携し、徳之島の海や本町の魅力を発信してまいります。また、新年度は3町で徳之島の観光動画を作成し、徳之島・天城町を PR してまいります。

令和元年から引き続き、徳之島と大阪（伊丹）を往復する臨時便が年末年始及び夏休み期間に運航しております。今後も、国・県・航空会社等への定期的な直行便就航の要請活動を継続して行ってまいります。また、クルーズ船誘致につきましては、世界自然遺産登録地であることを最大限に活用し、国際クルーズ船の誘致活動にも積極的に取り組み、徳之島・天城町の魅力を世界に発信してまいります。

あまぎ自然と伝統文化体験館整備事業につきましては、引き続き奄美群島成長戦略推進交付金事業を活用し、年次的に整備を行ってまいります。隣接した総合運動公園や山猪工房、天城町水産業振興拠点施設とも連携し、伝統文化体験・スポーツのほか様々な場面で人と人をつなぐ機能を持たせ、異なる価値観が会う施設を目指してまいります。

トライアスロン IN 徳之島大会につきましては、コロナ禍のなかではございましたが、昨年は3年ぶりに開催することができました。毎回、参加者からも好評を得ており、全国的にも人気のある大会として定着しております。6月25日に開催されます第36回大会につきましても万全な大会運営に努め、名実ともに「スポーツ愛ランド徳之島」を広く島外に発信し、地域活性化へ繋げてまいります。

「燃ゆる感動かごしま国体トライアスロン競技」につきましては、松原漁港を主会場として10月8日に開催されます。再度、万全な体制を構築し、鹿児島県、競技団体並びに関係機関と連携を図りながら、国体に向けての気運醸成や各種整備等の準備を進めてまいります。また、コース沿線において「ユイの里天城花いっぱいフラワーロード運動」を展開するなど、町民一丸となって大会の成功に向けて取り組んでまいりたいと考えておりますのでご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

スポーツ合宿誘致につきましては、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたこともあり、令和4年度の入場人数は過去最多となりました。スポーツ合宿誘致は、経済波及効果も大きく、スポーツチームとの繋がりをさらに密にし、継続的な誘致活動を展開することで、本町の地域活性化及び交流人口の拡大に繋がりたいと考えております。

## 2. 新しい人の流れをつくる

### (1) ふるさと創生

長引くコロナ禍により、デジタル化やオンライン化が進み、地方の地理的課題が改善されつつあります。また、専門的な知識を有する民間企業からの提案も増えており、今後は官・民連携による取り組みが重要になってまいります。国が提唱する「デジタル田園都市国家構想」を踏まえ、デジタルの力を最大限活用し、引き続き本町の活性化に取り組んでまいります。

移住・定住の促進につきましては、移住コンシェルジュ（地域おこし協力隊）とSUMO UKAビト（移住する方・移住された方等）によるSNS等での積極的な移住情報発信を行っております。令和4年度は、移住・定住に関する問合せ件数が132件あり、実際に本町に移住された方は9世帯16人となりました。また、お試し移住体験を活用された方は10世帯26人となっております。さらに、令和4年度から実施しております引越費用補助金につきましても、これまでに10世帯の方に活用いただいております。これからもワンストップ移住相談窓口の体制強化と移住情報ウェブサイトを活用し、多様な移住ニーズの把握と移住希望者に寄り添った支援を行ってまいります。また、大都市圏での移住フェア等に積極的に参加しPR活動を行い、移住人口の増加に努めてまいります。

空き家対策につきましては、令和4年度は10件の空き家バンクの新規登録があり、全て契約済みとなっております。また、空き家改修費補助金は2件、お帰りさない住宅改修補助金は6件の改修を行っております。今後も空き家の有効活用を促進するとともに、町ホームページなどで広く空き家情報を提供し、定住者の増加に繋げてまいります。また、天城町空家等対策計画に基づき、空き家・廃屋などの適正管理を啓発してまいります。

ふるさと納税につきましては、令和3年度は7,843件、1億1千3百56万3千円のご寄附をいただいております。令和4年度につきましては、2月末時点で5,791件、8千2百20万7千円と、やや苦戦しております。引き続き、ウェブサイトでのPRや寄附者様に選んでいただけるような商品の発掘に取り組んでまいります。また、令和4年度から開始した企業版ふるさと納税については、9件3百万円のご寄附をいただきました。これまでご寄附を頂いた皆様とのご縁を継続していけるよう、全国へのPR活動を積極的に行ってまいります。

## (2) 世界自然遺産登録地として

世界自然遺産につきましては、その価値を将来にわたって保全していくため、引き続き徳之島希少野生動植物保護事業や徳之島三町ネコ対策事業を実施し、希少野生動植物の保護や普及啓発に努めてまいります。また、アマミノクロウサギの生息状況の回復に伴い、交通事故が増加傾向にあることから、夜間でも視認性の高い反射材を用いたマグネット型の注意標識を製作し、設置してまいります。

さらに、世界自然遺産の島を島内外に積極的に発信していくため、国内屈指のアウトドアメーカー・モンベルとの「フレンドタウン」を活かした取り組みや世界自然遺産奄美トレイルを活用したイベント等も実施してまいります。

徳之島3町の連携した取り組みとしましては、世界自然遺産登録の効果を持続可能的に普及させるため、新たに徳之島世界自然遺産推進協議会（仮称）を設立し、世界自然遺産



を活かした地域振興や人材育成に取り組んでまいります。

### 3. 健康・妊娠・子育て・教育の希望をかなえる

#### (1) 子どもから高齢者までみんなが健康の町

保健予防事業につきましては、引き続き乳幼児健診、特定健診、長寿健診、がん検診などの各種検診の受診率向上に努め、早期の育児支援や保健指導、疾病の早期発見・早期治療につなげ、健康の保持増進と医療費の適正化にさらに取り組んでまいります。

「島外治療旅費助成」につきましては、現在利用者負担となっています医療機関の証明書に要する費用の助成や回数制限を3回から5回へ拡充し、利用者の経済的負担の軽減に努めてまいります。

国民健康保険事業につきましては、誰もが安心して医療が受けられるよう、その安定的な運営を進めてまいります。また、年々高騰し続けている医療費の抑制を図るため、個々に応じた運動の提案を実施するとともに、レセプト点検等の医療費適正化対策を推進してまいります。

子育て支援につきましては、「子育て世代包括支援センター（こそだてらす）」を拠点とし、妊娠から子育てまで切れ目のない支援のため、妊活支援事業・ハイリスク妊産婦助成事業による旅費助成や、妊婦等保健指導・妊婦乳幼児健診・産後ケア事業・親子教室等を実施しております。新年度は、ハイリスク妊産婦助成事業における助成費の上限を引き上げ、支援の拡充を図ります。また、全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産子育てが出来るよう、新たに伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊娠の届出や出生の届出を行った妊婦・子育て世帯等に「出産・子育て応援給付金」を支給します。

また、令和4年度から支給額を拡充いたしました「出産祝金支給」を継続して行うとともに、「新入学生未来づくり応援金」や「在宅育児支援金」、「児童養育助成事業」による保育料の無償化や「児童医療費助成」などを引き続き実施し、少子化対策及び子育て世帯への経済的支援や負担軽減に努めてまいります。

保育所につきましては、保育士等のオンライン研修の実施により、安心・安全で質の高い保育環境の実現に努めるとともに、引き続きふるさと納税を活用した遊具等の整備を進めてまいります。また、保育所の建替えにつきましては、現在調査中であります保護者等の意識調査の結果等を参考にしながら、今後の建設に向けての準備を進めてまいります。

障がい者福祉につきましては、現在実施しております行政機関における就労機会の提供を継続して推進し、障がいのある方が社会活動に参加するための支援に努めてまいります。また、障がいのある方もない方も地域で共生する社会の実現を目指す次の3年間の「障がい者計画・障がい福祉計画・障がい児福祉計画」を策定してまいります。

高齢者福祉につきましては、令和4年度から実施しております「高齢者ハンドル形電動車いす購入費助成」を継続して実施するとともに「敬老祝金支給」や「緊急通報装置の設置・推進」など高齢者に寄り添った事業を展開するほか、老人クラブへの助成を引き続き行い、地域づくりや自主的な活動を支援してまいります。

介護保険事業につきましては、自立支援・介護予防・重度化防止に取り組むとともに、介護給付適正化事業に取り組み、介護保険制度の安定と持続可能な運営を推進してまいります。

地域支援事業につきましては、高齢者が安心して自分の家で暮らし続けることの出来る社会の構築を目指してまいります。そのために、高齢者の状況を把握し、医療・介護・予防・住まい・地域の見守りや生活支援等の充実を図り、高齢者一人ひとりの生活を支える仕組みづくり、地域包括ケアシステムの構築と充実を図ってまいります。

また、児童福祉法の改正により市町村は、児童福祉と母子保健の一体的な支援体制を有する機関「子ども家庭センター」の設置に努めることが義務づけられました。令和6年4月の設置に向け準備を進めてまいります。

## (2) 将来の天城町を託せる人材の教育

教育文化の町づくりにつきましては、「ユイの心をもち、世界雄飛と島担う人づくり」を基本目標として、将来の天城町を託せる人材育成を引き続き推進してまいります。

学校教育につきましては、人権尊重並びにSDGsの理念を念頭に置いた教育活動を展開してまいります。また、ICT機器の積極的な活用を推進し、子どもたちの力を最大限に引き出すGIGAスクール構想の実現に向けて、タブレット端末の効果的な活用をさらに進めてまいります。

教職員の働き方改革の推進につきましては、学習評価等に校務支援システムを活用するとともに、国が進めている「休日の部活動の段階的な地域移行」を推進してまいります。

学力向上に向けた教職員の資質向上、充実した教育活動の推進につきましては、「天城町教育推進プラン」に基づき、教職員も子どもも共に成長できるように努めてまいります。

生徒指導につきましては、心の教育相談員やスクールソーシャルワーカーの配置を継続するとともに、引き続き、臨床心理士によるスクールカウンセリングを定期的に行い、児童生徒や家庭に寄り添った支援を行ってまいります。特別支援教育につきましては、相談体制のさらなる充実と努めるとともに、B&G海洋センターでの海洋性レクリエーション活動を行うなど、引き続き学校間の交流を深めてまいります。

「われんきゃグローバルプロジェクト」につきましては、児童・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上に資するため、英検・漢検など各種検定を実施するとともに、保護者

の経済的負担の軽減を図るため、これに要する経費について学力向上検定補助事業を継続して実施いたします。また、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しております中学生を対象とした海外派遣事業につきましては、先行きが見通せないため、オンラインによる交流活動を中心とした内容といたします。一日も早く海外派遣が再開できることを念じております。

英語教育につきましては、令和4年度から3年間を英語教育強化期間として「天城町英語教育推進プラン」に基づいた取り組みを展開しております。新年度も、ALTや外国語活動指導講師の幼稚園・保育所への派遣、オンライン学習教材の活用やサマーキャンプの実施など、子ども達が今まで以上に生の英語に触れる機会を設けてまいります。

郷土教育につきましては、引き続き世界自然遺産学習「あまぎ学」を通じて、自然や文化・伝統に関心を持ち、ふるさと天城に誇りをもつ児童生徒の育成と自然環境等の世界的な“価値”に関する学びを行います。また、健康で心豊かな子どもの育成の推進につきましては、「森と海の藝術楽校」の体験活動や芸術とのふれあい教室を実施してまいります。さらに、山海留学制度の継続的な実施により、学校や地域の活性化に繋げてまいります。

学校給食につきましては、地場産品を積極的に活用し、地域の自然や文化、農業に関する理解を深めると共に、生産者の努力や食に対する感謝の気持ちを育ててまいります。給食センターにつきましては、新年度中に建設予定地の確保や実施設計を行い、建設に向けた準備を進めてまいります。

高等学校、短期大学、専門学校、大学等への進学希望者を対象に、「天城町育英奨学資金」や「夢と希望の上原勇一郎奨学資金」を継続して貸与してまいります。

学校施設につきましては、天城町学校施設長寿命化計画及びAMAGI-VISIONに基づき校舎・体育館・教員住宅の計画的な補修・建て替えを進めてまいります。

若い世代の発想力や行動力を活かし、活力あふれる地域社会の創出に努めるべく、令和3年度に樟南第二高等学校との包括連携協定を締結しております。これまでに、生徒の皆さんによるごみ回収ボックスや絵本の製作、平土野商店街の町歩きと活性化に向けた検討や具体的提案などに取り組んでいただきました。引き続き、これらの取り組みを継続するとともに、新年度は新たに高校生版エコツーリズム講座を実施し、若い世代の皆さんに世界自然遺産の島の魅力を感じ、島内外に発信していく機会をつくってまいります。また、島外からの樟南第二高等学校への進学ニーズに応え、本町で実り豊かな青春を過ごしていただくために、女子寮の建設を行ってまいります。

社会教育につきましては、5年ぶりとなります第2回天城町教育文化の町推進大会を開催し、学校、家庭、地域と協働し、ふるさと天城の地域活性化に努めてまいります。また、OSOS運動の推進と地域コミュニティの育成並びにユイの精神・助け合いのこころの醸成を図り、地域活性化の一助としていきたいと考えております。

「地域おこしは集落興しから」の観点で、自治公民館長研修会をより充実させ、活動の支援を行ってまいります。生涯学習講座につきましては、学びの場を提供してキャリアア

ップ・生きがいを図れる環境を整備するとともに、青少年の健全育成や町民のコミュニティの構築等、いきいきとした生涯学習活動の推進に努めてまいります。また、新年度は大型三面鏡を増備し、ダンスやレクリエーション・舞踊など、各種活動の活性化を図ります。

さらに、引き続き放送大学授業単位取得助成事業を行い、町民の学習意欲の向上及び経済的負担軽減を図ります。

文化芸術の取り組みにつきましては、小学生を対象とした劇団四季「こころの劇場」を4年ぶりに再開するとともに、全町民を対象とした「霧島国際音楽祭 in 天城町」を開催するなど、芸術を愛する心や豊かな情操を育ててまいります。

教科セミナーにつきましては、児童・生徒の学習意欲向上に向けた環境づくりに努め、講師及び保護者との連携を密にし、授業内容の充実、夏季・冬季セミナーの集中講義や模擬テストに力を入れ、次代を担う青少年の学力向上を支援してまいります。

自主的学び応援事業につきましては、平成30年度から今まで14名の生徒が島外の学習塾夏季スクーリングに参加いたしました。さらにその周知を図り、自らの目標達成に向けてチャレンジする生徒の育成・支援に努めてまいります。

中央女性教室・高齢者教室につきましては、様々な体験活動を通し社会連帯意識向上に努めてまいります。また、教室を通じた仲間づくりにより孤立をなくし、一人ひとりがより豊かな人生構築をしていけるよう支援してまいります。

図書館につきましては、映画鑑賞会や読み聞かせなどを行い、学び・遊び・交流ができ、親しみの持てる図書館を目指してまいります。また、地域の方々へこれからの時代に必要な情報提供ができるよう、新年度は図書費を増額し、時代の変化に対応した本の選書・購入に努めてまいります。

社会体育につきましては、第64回大島地区大会「柔道競技」が本町にて開催予定となっており、その受入準備を進めてまいります。また、奄美大島で開催される第14回全国離島交流中学生野球大会(離島甲子園)への、徳之島3町合同チームの派遣を支援してまいります。さらに、スポーツ振興くじ助成金を活用して、天城中学校屋外夜間照明施設を2基新設し、地域住民並びに体育団体が安全かつ安心して利用して頂けるよう整備を進めてまいります。

B&G海洋センターにつきましては、新たに高校生以上を対象とした脚筋力アップ教室の開催や、高齢者を対象とした介護予防教室等を実施するなど、健康運動指導を実践し、幅広くいきいきと活動できるセンター運営に努めてまいります。また、幼稚園や保育所と連携したスイミング教室の開催、生後6カ月から3歳児を対象にしたベビースイミングなどの各種水泳教室を実施し、プールの利用促進を図るとともに、子ども達の運動機能能力の向上や親子のふれあいの場としての環境を整備いたします。

プールにつきましては、B&G財団の修繕助成を活用し、温水化や屋根及び外壁全面改修に向けた準備を進めてまいります。

多目的艇庫におきましては、小中学生の宿泊体験学習時のプログラムの受け入れ、水上

アクティビティを通じた青少年の健全育成、並びに町民の交流の場や観光拠点としての利用促進にお一層努めてまいります。

総合運動公園につきましては、多目的広場の陸上タータントラックの破損が確認されているため修繕を行い、町民の皆様はもちろん、スポーツ合宿の選手の方々が安心して利用できるよう改善してまいります。

ユイの館につきましては、郷土文化保存と展示の充実、夜光貝を利用した工芸教室やSDGsに関連した講座、自然観察会、講演会など町民誰もが参加できる学習環境の充実に努めてまいります。世界自然遺産登録により島外からの来館者が増加傾向であり、本町で体験できる自然文化を具体的に紹介、発信するなど地域文化振興に努めてまいります。

文化財につきましては、「国宝重要文化財等保存整備事業」を活用して、下原洞穴遺跡の発掘調査成果をまとめた総括報告書を作成いたします。併せて、文化庁や鹿児島県文化財課などの関係機関と連携して、下原洞穴遺跡の国史跡への指定を目指してまいります。

さらに、「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」を活用し、下原洞穴遺跡の学術的な重要性を広く発信するために、県本土において専門家を交えた下原洞穴遺跡に関するシンポジウムを開催するとともに、遺跡の内容をよりわかりやすく伝える展示資料の作成を行ってまいります。

また、西郷南洲翁上陸記念碑と石川部隊慰霊碑の周辺整備を行い、より多くの方々が訪れやすい環境にしてまいります。

## 4. 時代に合ったまちづくり、安心したくらしを守る

### (1) 町民が安心して暮らせる環境の確保

道路の整備につきましては、国庫補助事業の前野岡前横断線及び平和東線の道路改良を継続して実施してまいります。また、各集落の要望箇所につきましては、集落環境整備事業にて対応してまいります。

地方改善施設整備事業につきましては、新年度は湾屋3号線ほか、集落内排水路の整備を進めてまいります。

道路メンテナンス事業では、浅間地区の向川2号橋の補修を行います。

舗装修繕事業につきましては、戸ノ木線、松原浅間海岸線、兼久当部線、畑尻線、当山2号線、浅間中央線、奥川線を進めます。

また、町単独事業として、名須3号線の設計、前城3号線の改築、空港バイパス線の新設を行います。

県から委託を受けております県道管理につきましては、維持補修事業及び路傍樹育成保全事業を継続して実施してまいります。

町営住宅管理につきましては、入居者の生活環境向上のため維持補修に努めてまいります。また、住宅等ストック総合改善事業にて住戸の長寿命化を図るため、塩満団地2棟8戸について屋上防水やトイレの水洗化を含めた改修リフォームを行います。

町営住宅整備につきましては、公営住宅建設事業として名須C団地に1棟6戸を建設し、引き続き住宅不足解消に努めてまいります。

公園整備事業につきましては、高千穂公園・港公園の遊具設置が完了し、総合運動公園わんぱく広場と併せて、子ども達の笑い声により、地域が賑やかになりつつあります。新年度は、湾屋川史跡公園の遊具の設置や港公園の擁壁・園路の整備を行い、幅広い年代の方々に安心安全に利用できる憩いの場の提供に努めてまいります。

また、秋利神キャンパスパークについては、再整備の計画を策定してまいります。

県が着手しております県道83号線整備の早期完了及び県道80号線の整備につきましては、去る1月12日に議員の皆様と県知事へ要望したところであり、引き続き、粘り強く要望を続けてまいります。

防災につきましては、昨年導入した「天城町防災アプリ」を一人でも多くの方々にインストールして活用頂けるよう、周知徹底を図ります。それにより、「いつでも、どこにいても」情報の確認をすることができます。

いつ、どこで発生するかわからない大規模自然災害に備え、町土の強靱化対策並びに防災・減災対策は重要な課題であります。日頃からの備えを訓練等でシュミレーションするとともに全集落の自主防災組織の強化と防災意識の向上を図り、災害に強いまちづくりを目指します。

令和3年3月に策定いたしました「天城町国土強靱化地域計画」及び「天城町地域防災計画」に基づき、令和4年度に「前野福祉館」、「西阿木名振興センター」の2ヶ所の指定避難所について、防風・防水対策・バリアフリー化など避難所機能強化を図っております。新年度は、国の令和4年度補正予算を活用し、「与名間・松原上区・瀬滝」の3ヶ所の指定避難所の機能強化を図るための改修工事、そして8ヶ所の指定避難所の耐震診断調査を実施いたします。

引き続き、B&G財団の「防災拠点の設置および災害時相互支援体制構築事業」を活用した重機や水上バイク、災害用ドローンの講習・研修を行い、災害時に運用できる体制構築を図ってまいります。

交通安全・防犯対策等につきましては、徳之島警察署及び徳之島地区防犯連絡協議会や集落区長との連携により、随時危険箇所等を把握するとともに、その情報を共有し早期対応に努めてまいります。令和4年度には、総合陸運スタンド前交差点と平土野ポケット公

園前交差点に防犯カメラの設置を行います。新年度も2ヶ所の設置を予定しております。

また、町内交通安全支部及び交通安全母の会とともに交通ルールや交通マナーの意識向上、並びに飲酒運転根絶運動を積極的に実施し、町内交通死亡事故ゼロを目指します。

島内唯一の指定自動車教習所であります徳之島自動車学校につきましては、少子高齢化等の影響により、その経営状況が厳しく、料金改定をせざるを得ない状況となっております。高齢者講習・認知検査・免許の新規取得等の一部助成を実施し、町民の負担軽減を図るとともに、地域の交通安全教育機関の維持を支援してまいります。

水道事業につきましては、AMAGI-VISIONに基づき、町内の水道事業基盤の強化を図るとともに、災害に強い施設を目指し老朽化施設の計画的な統合整備や更新を実施してまいります。

新年度から国の「生活基盤施設耐震化等交付金事業」を活用し、松原地区の老朽化した導水管、配水管、浄水場施設を年次的に更新してまいります。また、漏水調査対策として「過疎地域持続的発展支援交付金事業」を活用して、デジタル技術衛星画像解析による漏水調査を実施し、漏水箇所を効率的かつ迅速に特定し、その修繕に努めてまいります。

水質管理につきましては、町民が「いつでも安心して飲める、安全で信頼される水道」を目指し水道水の安定供給に努めてまいります。

公衆衛生につきましては、引き続き生活排水対策として合併処理浄化槽設置整備事業を推進してまいります。現在、本町においては、合併処理浄化槽設置率が52%となっており、世界自然遺産登録に伴う環境対策及び環境保全の重要性も増しつつあることから、今後より一層の設置率向上に努めてまいります。

廃棄物対策としましては、引き続き生ごみ処理機購入費助成事業の実施と併せて、新たにコンポストの購入費助成事業を導入することにより、ごみの減量化・資源化を推進してまいります。また、不法投棄防止パトロールや海岸漂着物・軽石の回収を引き続き行い、世界自然遺産の島に相応しい町の景観及び自然環境の保全に努めてまいります。

徳之島愛ランドクリーンセンター新設につきましては、本町での建設が決定しております。新設に向けて、鋭意準備を進めてまいります。

## (2) デジタル化の推進

時代の変化に対応するため、国のデジタル田園都市国家構想交付金を積極的に活用し、デジタルデバイド（高齢者等のデジタル弱者とのデジタル格差）の解消に努め、地域のデジタル化を進めてまいります。

町民の皆様が役場まで足を運ばなくても、全国のコンビニ等で住民票や課税証明書・所得証明書の交付を受けられるようにいたします。

また、高齢者及び児童・生徒の見守りや交通安全など防犯のため「地域の安全・安心向上に向けた見守りサービス導入事業」を実施し、年次的に町内各所に見守りカメラを設置

いたします。

さらに、政府が創設した10月の第1日曜・月曜「デジタルの日」・「デジタル月間」に合わせ、本町においても「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」の実現に向け、町民の皆様がデジタル技術やサービスを身近に感じられるイベントを開催いたします。

デジタル社会のパスポートともいわれるマイナンバーカードにつきましては、現在の本町取得率は、全国の取得率と同水準の58.5%となっております。町民の皆様には、ご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。今後も国のデジタル化推進という大きな流れの中で、行政サービスの効率化と連動させた健康保険証との紐づけなど、各種手続きの簡素化や利便性向上には欠かせないものとなっていくことから、引き続き出張受付・休日受付・夜間受付等の強化を図り、取得率の向上に努めてまいります。

### (3) 脱炭素社会の形成

地球温暖化や気候変動は、人類共通の喫緊の課題となっております。国においては、2050年までに温室効果ガスを全体としてゼロを目指し、地域脱炭素ロードマップを策定するなど、脱炭素社会の形成に向けた取り組みを強化しております。本町においても、新年度は国の「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」を活用した計画づくりに着手し、再生可能エネルギーの導入の在り方や地域脱炭素の実現に向けた検討を進めてまいります。

また、引き続き集落防犯灯の設置及び既設防犯灯や公共施設のLED化を進め、消費電力の低減による脱炭素の推進、並びに集落の負担軽減を図ってまいります。

### (4) 行財政改革の推進と職員の資質向上

少子高齢化・人口減少が進行している中で、複雑多様化する行政課題や町民ニーズに的確に対応できるよう、第3次天城町行政改革大綱及び天城町人材育成方針に基づき、職員の資質向上や組織力の強化を図るとともに、町民との協働意識の醸成を図ってまいります。

各種職員研修を積極的に開催し、公務員倫理並びにコンプライアンス遵守を徹底してまいります。また、メンタルヘルスケアについて、講習会及び専門講師による個別相談会等を定期的で開催し、職員が働きやすい環境づくりに努めてまいります。

税務行政につきましては、安定した税収による自主財源の確保を図ることについて、町民の皆様には納税に対する深いご理解とご協力をいただいているところであります。納税者の利便性向上と国のデジタル化推進の政策を踏まえ、24時間対応のコンビニ収納やPay B（ペイビー）やPayPay（ペイペイ）等のスマホ決済サービスに対応しております。また、税の相談に細かく対応するため、毎月1回休日納付窓口の開設なども引き続き行ってまいります。

一方、税の公平性の観点から、納税に対するご理解が得られない一部の滞納者に対しては、法に基づき預貯金や生命保険等の財産調査及び勤務先への給与調査等を行います。さらに財産差押えなどの滞納処分を強力に実施してまいります。また、若年期からの納税意



識の醸成を図るため、小中学生を対象とした税に関する作品募集や租税教育の実施、さらには町税に関する様々な広報等に積極的に取り組みます。

以上、町政運営の基本方針と施策の概要を申し上げました。

今後も町民の皆様と共に働き、健全な町政運営に取り組んでまいりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

次に、令和5年度予算案の概要を申し上げます。

## 予算案の概要

新年度につきましては、AMAGI-VISIONに基づき、限られた財源を有効に活用し、職員一人ひとりの柔軟な発想と英知を集め、高度化・多様化する町民ニーズに的確に対応するという基本的な考え方の元に予算編成を行ったところでございます。

それぞれの会計の予算額については、

一般会計は、対前年度比2.7%増の66億3千9百86万円、

国民健康保険事業特別会計は、対前年度比0.4%減の9億5千2百41万9千円、

介護保険事業特別会計は、対前年度比3.4%減の8億2千76万5千円、

後期高齢者医療事業特別会計は、対前年度比8.2%増の8千5百38万3千円、

徳之島ダム小水力発電特別会計は、対前年比12.2%増の5千2百50万3千円、

水道事業会計は対前年度比123.7%増の5億7千38万3千円となっております。

一般会計と特別会計・公営企業会計をあわせた予算の総額は91億2千1百31万3千円、対前年度比5.5%増の4億7千2百6万3千円の増額となっております。

それでは、一般会計当初予算の概要について、ご説明いたします。

### 〈 歳 入 〉

町税につきましては、個人町民税は対前年度比0.8%増、法人町民税は対前年度比0.6%増、固定資産税は対前年度比0.4%減などを含め、令和4年度とほぼ同額の3億8千3百38万9千円を見込んでおります。

地方譲与税につきましては、対前年度比2.3%増の7千2百40万7千円となっております。

利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、法人事業税交付金、地方消費

税交付金、環境性能割交付金、地方特例交付金、交通安全対策特別交付金につきましては、これまでの実績等を踏まえそれぞれ計上しております。

地方交付税につきましては、国の総額は対前年度比 1.7%の増加となっていることを踏まえつつ、基準財政需要額と基準財政収入額、昨年実績などを考慮し、対前年度比 7 千 15 万 1 千円増額の 31 億 6 千 7 百 4 万 4 千円を見込んでおります。

分担金及び負担金につきましては、農地費分担金の増などがありますが、令和 4 年度に天城町商工業応援商品券事業個人負担金 5 千万円を計上していたため前年度比 43.2%減と大幅な減額となっております。

使用料及び手数料につきましては、総務手数料の減額がありますが、住宅使用料などの増により前年度比 1.3%増を見込んでおります。

国庫支出金につきましては、公営住宅等ストック総合改善事業補助の新規計上により土木費国庫補助金が前年度比 8.3%増となっておりますが、新型コロナウイルスワクチン接種対策費国庫負担金や地方創生臨時交付金などの減額により、対前年度比 11.6%減の 6 億 6 千 2 百 55 万円となっております。

県支出金につきましては、かごしま国体トライアスロン競技が開催されることから、燃ゆる感動かごしま国体トライアスロン競技運営補助金や国体トライアスロン競技市町村有施設整備費補助などを計上しており対前年度比 3.6%増の 5 億 7 千 4 百 33 万 3 千円となっております。

財産収入につきましては、天城町水産業振興拠点施設での鮮魚等売払収入を計上し、前年度比 95.9%増の 4 千 3 百 48 万 4 千円、寄附金については天城町ゆたかなふるさと寄附金や企業版ふるさと納税などで、1 億 5 千 2 百万 1 千円を計上しております。

繰入金につきましては、徳之島観光 P R 動画制作や保育所の遊具購入、児童医療費扶助等の財源として天城町ゆたかなふるさと基金より 4 千 3 百 53 万 9 千円を繰入し、集落提案型まちづくり活動支援交付金の財源として地域づくり推進基金より 2 百 10 万円を活用することとしています。また、天城総合運動公園のタータントラック修繕の財源として、天城町公共施設整備基金より 1 千 2 百 71 万 6 千円、さらに財政需要に対処するため財政調整基金より 2 億 8 千 79 万 1 千円などの繰入を行います。

繰越金につきましては 5 千万円、諸収入につきましては t o t o スポーツ振興くじ助成金や B & G 財団助成金等を計上し、対前年度比 39.1%増の 5 千 9 百 6 万 2 千円を計上しております。

町債につきましては、ハード事業に6億5千8百70万円、産業振興・福祉向上・教育振興などのソフト事業に9千1百30万円、臨時財政対策債に1千5百76万8千円を計上し、対前年度比13.0%増の7億6千5百76万8千円の起債を予定しています。

## 〈 歳 出 〉

議会費につきましては、対前年度比0.7%減の9千1百17万6千円を計上しております。

総務費につきましては、対前年度比7.3%増の11億7千3百万円の計上となっております。デジタル田園都市国家構想交付金を活用し、「証明書のコンビニ交付サービス」や地域の安全確保として町内の主要道路にAIカメラの設置とアプリを使用した位置情報検索による高齢者及び児童・生徒の見守りができる「あんしんみまもりサービス」をスタートします。また、脱炭素推進費にて脱炭素社会の実現に向けた基本計画策定に要する経費を計上しております。

民生費につきましては、社会福祉費は減額、児童福祉費は増額ですが、全体では対前年度比0.3%減の11億5千9百76万2千円となっております。新年度は高齢者福祉計画や障害福祉計画等の策定年度であることからその経費を計上するとともに、「島外治療旅費助成金」につきましてはその内容を拡充し、増額計上しております。

衛生費につきましては、令和4年度とほぼ同額の5億8千4百37万7千円となっておりますが、各種検診等に関する事業費、妊活支援旅費助成やハイリスク妊産婦旅費助成を継続して行うだけでなく、新たに妊娠時から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援と経済的支援を行う出産子育て応援事業費を計上し、全ての妊婦や子育て家庭が安心して出産できる環境整備に取り組んでまいります。

農林水産業費につきましては、これまで糖業や園芸に対して土壌改良資材助成を行ってきましたが、新年度より畜産についても同様の助成を行うことからその経費を計上し、天城町水産業振興拠点施設の運営に関する経費、農業施設の整備を目的とした農業基盤整備促進事業やかごしまの未来創造支援事業などを合わせて、対前年度比9.5%減の7億5千8百73万5千円となっております。

また、既存の各種補助事業や、鳥獣等被害対策についても積極的に取り組んでまいります。

商工費につきましては、平土野アートまち歩き事業補助や、あまぎ自然と伝統文化体験館整備事業費などを計上しており、対前年度比34.0%減の1億8千8百15万8千円となっております。

土木費につきましては、インフラ整備として空港バイパス線改築事業や前城3号線改築事業費を計上するだけでなく、樟南第二高校女子寮建設事業費を計上し、高校の維持及び関係人口の増加を図って行きたいと考えています。土木費の予算額については、対前年度比31.6%増の10億5千2百12万5千円の計上となっております。

消防費につきましては、B&G助成金を活用した災害時相互支援体制構築事業を継続して行うなど、対前年度比17.9%減の1億7千7百44万5千円となっております。

教育費につきましては、持続可能な部活動と教職員の負担軽減の両方を実現するため、地域スポーツ・文化活動推進事業費や天城中学校屋外夜間照明施設整備事業、海洋センタープール施設改修事業などを計上し、対前年度比16.0%増の6億8千1百51万5千円の計上となっております。

また、生徒・教職員の心のケアを目的とした心の健康支援事業や教職員が一層児童生徒への指導等に注力できるよう教員業務支援員事業を実施し、教育環境の向上に努めるとともに、外国青年招致事業やわれんきゃグローバルプロジェクト事業において、引き続き外国語教育の強化を図ってまいります。

災害復旧費につきましては、1千6百56万6千円、公債費については、7億5千4百万1千円、予備費としまして3百万円を計上しております。

ただいま、一般会計の予算の概要について申し上げましたが、冒頭に述べた6つの主要施策を実現すべく、町政運営の基本方針に基づくとともに、「住んでよかった！暮らし満足度No.1のまち」を目指し、予算を編成いたしました。

重ねてではございますが、議員各位及び町民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

以上で私の施政方針及び令和5年度の予算の概要の説明を終わらせていただきます。